



4 3期生学年通信 No14.2022.10.18 ～平和学習振り返り号～

平和学習 唯一の地上戦「沖縄戦」について考える part2

先月12日、アニメ「ひめゆり」を見て、戦争や沖縄戦について考えました。1年生の時にも「島唄」や「よみがえる戦場」を視聴して沖縄戦の概要について学びましたが、今回はさらにひめゆり学徒隊で多くの学生が犠牲になった事実を知り、当時の人々の思いを考えました。感想の一部を載せます。

今もこの世界でこの沖縄の人と同じように戦争で苦しんでいる人がたくさんいると思う。アメリカ軍の人々が全員悪いとは言えないと思う。だって、アメリカ軍の人々が手厚く手当ををしていることから、上からの命令でやるしかない人々もいたんだと思う。今のロシアも同じで、ロシアの人々全員が悪いのではないと思う。

戦争はだめだと思った。目先の利益だけを見ず、もっと大切なものを大事にしていけないといけない。

戦争は誰も得しないし大切な人がいなくなってしまうからダメだと改めて思いました。生き抜いた人、亡くなった人どちらもつらいなと思いました。自分も戦争で亡くなった人の分まで生きようと思いました。

ケガをしてまだ生きている人を置いてくのは、かわいそうだなと思いました。食べるものがなくて地面にはたくさんの人たちが亡くなっていてつらかったと思いました。助けてくれるとは思っていなかったの、アメリカ軍がけがの手当てをしたり、食料や水をあげたりしたのは驚きました。

毎日爆弾が落ちる音が聞こえるなかで、けが人を手当てしたり看病したりしていたのを見て、その時人々は凄い勇気があったのと、恐怖に立ち向かっている姿がすごいと思った。日本という国のため、捕まるくらいなら、と集団自決した人々を見て、どれだけ必死だったか伝わった。

政治に関わっていないし、戦いたくもないのに戦わされ、置き去りにされた兵士たち、けがをした兵士たちの手当てをし、置き去りにするひめゆりの人たちの複雑な気持ちを思うと心が痛かったです。あくまでも民衆は関係ないのに殺されるのは分からない。だからといって今のアメリカ人を責めるのは違う。

ご飯をたくさん食べたり、学校に行って友達としゃべったり、家族と一緒にいられることは当たり前じゃないという事を改めて分かった。自分たちと同じ年ぐらいから働かされることはとてもつらいことだと思いました。

沖縄では、県民の1/4が死亡したことを知って、誰でも死と隣り合わせでどれだけ危険だったのかが分かった。今は普通に生活していると死にそうになることはないけれど、沖縄戦は島の人にとって大きな傷になったんだなと思った。

若い人にも、そんなことをさせていたのかと考えると悲しくなる。自分がもし、その時代に生まれてこんなのを体験したら、どうなっていたんだろう。耐えられんやろうな。何年か前に、沖縄のおじいのおうちから、兵隊服？銃の跡がついた服が出てきて、めっちゃびっくりした。本当だったんだと思って怖くなったのを思い出した。もう二度と、こんなことがあっちゃだめだと改めて感じた。

今、普通に勉強しているような中学生が戦争の時に働いたり、仕事をしたりしていて私たちが学校に通えているのが幸せな事なんだと思った。沖縄は観光地としても有名だけど昔はこのようなことがあったということをしっかり覚えておく。修学旅行では、戦争のことについて意識して沖縄に行こうと思う。

考えたことは、自分は戦争とかそういう今の時代でないでしょって、結構思ってしまったんだけど、実際、今だってウクライナの戦争とかもあるし、先生が言っていたみたいに、ひとごととして考えてはいけないと思えました。そして、今、私が毎日家族か友だちといられて、ごはんだっておなかいっぱい食べられて本当に幸せだと思ったし、こういう時間をもっとありがたく思おうと思えました。

アメリカと戦争をしたってことは知っていましたが、こんなに昔の人はひどい目にあったのは知らなかったです。昔の人は青春ができなくてとてもかわいそうだし、ぼくは戦争はどこの国も絶対やってはいけないものだと思います。

沖縄に修学旅行に行くとき、戦争について詳しいところに行くんだたらちゃんと見て、その沖縄の人たちはどういう思いで暮らしたのかを見ます。

今回のようなアニメを見ても、本当にあったできごととは思えないし、思いたくないです。沖縄戦が起こった時代に生きていた人々の勇気と諦めない心をととても尊敬しています。ウクライナやロシアの戦争もこんな感じなのかなと考えるだけで心が痛くなりました。

まだ16歳なのに、兵隊の看病をして命からがら逃げてきたことは本当にすごいと思う。死と隣り合わせだったからこそその「どんなにつらくても生きなきゃだめ。」という言葉は心に響いた。